

平成 23 年 3 月 26 日 (土) 12:09 報告より

<「JA そうま」訪問の概況>

- ・ JA 福島中央会が、被害の大きかった同 JA を被災後一度も訪問できていないことから、お見舞いとともにも情勢把握、要望の聴きとりに訪問。これに JA 全中も同行した。
- ・ 往復路に見受けるガソリンスタンドの行列は 100 台にも及ぶところもあり、ガソリン不足は、大局的には回復の報（鉄道の回復、総体としての供給量の回復）が伝えられるが、実感が伴わない。
- ・ JA そうまは、本店が被災し、新地総合支店に本店機能を置いている。浜通りを南北に貫く国道 6 号線の海側の水田・家屋は、地形にもよるが、殆どが流され、漁船が打ち上げられ、がれきが広がっている。
- ・ 同 JA は、不稼働 ATM 9 台、信用店舗 10 店のネットワークが復旧してない（25 日午後 2 ATM、3 支店が復活予定）。
- ・ 同組合の鈴木組合長から要望・意見等をヒアリング実施。
- ・ 被害の大きな JA のひとつである「JA そうま」の意見を踏まえ、改めて、JA 福島中央会からは、営農・生活資金等に対する特別立法を含む国の保証制度の創設、JA 再建のための全中職員の人的支援などが求められた。

<原子力発電所災害に伴う農畜産物出荷停止措置等にかかる状況等>

- ・ 25 日（金）、庄條 JA 福島中央会会長、志賀 JA ふたば組合長以下要請団が上京し、玄葉国家戦略担当相、鹿野農水相、細川厚労相および県選出民主党議員に要請を実施した。また、JA 全中ほか JA グループ全国団体に対して要請を行った。
- ・ 出荷停止の損害や風評被害の記録については、県独自様式を用いて実施中。ただし、公的な、あるいは全国的な様式が提示されることにも期待。
- ・ また、県は文書を発出し、県内農家に対し当面の営農指導、とりわけ野菜農家に対してはすきこみを差し控えるべく指導、徹底を図っている。

<燃料にかかる状況等>

- ・ 県内の JA - SS（JA の運営するガソリンスタンド）への供給量は、昨日 210 kℓに対し本日は 270 kℓまで回復したが、なお震災前の 50%のカバー率にとどまる。